

INFECTIOUS DISEASES WEEKLY REPORT

TOKYO IDWR

東京都感染症情報センター

東京都感染症週報

2015年第8週
(2月16日～2月22日)

- * 2015年2月25日現在の情報により作成しています。
最新のデータは「Web版感染症発生動向」をご覧ください。
<http://survey.tokyo-eiken.go.jp/>
- * 今週は感染症豆知識「ポリオワクチンー過去と現在ー生ワクチンから不活化ワクチンへ」も掲載しています。

平成27(2015)年2月26日発行

編集・発行

東京都健康安全研究センター
健康危機管理情報課

電話：03-3363-3213(直通)
FAX：03-5332-7365
e-mail：idsc@tokyo-eiken.go.jp

全数把握対象疾患 報告数（一類～四類） 2015年8週

分類	対象疾患	東京都(保健所受理週)					全国(診断週)	
		5週	6週	7週	8週	年累計	8週	年累計
一類	エボラ出血熱							
	クリミア・コンゴ出血熱							
	痘そう							
	南米出血熱							
	ペスト							
	マールブルグ病							
	ラッサ熱							
二類	急性灰白髄炎							
	結核	67	63	52	74	463	357	3,036
	ジフテリア							
	重症急性呼吸器症候群 ^{*1}							
	中東呼吸器症候群 ^{*2}							
	鳥インフルエンザ(H5N1)							
鳥インフルエンザ(H7N9) ^{*3}								
三類	コレラ							2
	細菌性赤痢	2		1	2	6	4	16
	腸管出血性大腸菌感染症	1	1	1		7	42	133
	腸チフス					2	1	6
	パラチフス	1				2	1	5
四類	E型肝炎	1	2			3	2	26
	ウエストナイル熱							
	A型肝炎	2			2	6	6	47
	エキノコックス症					1		3
	黄熱							
	オウム病							2
	オムスク出血熱							
	回帰熱							
	キャサヌル森林病							
	Q熱							
	狂犬病							
	コクシジオイデス症							
	サル痘							
	重症熱性血小板減少症候群 ^{*4}							1
	腎症候性出血熱							
	西部ウマ脳炎							
	ダニ媒介脳炎							
	炭疽							
	チクングニア熱					1		1
	つつが虫病							15
デング熱		2	2		9	3	30	
東部ウマ脳炎								
鳥インフルエンザ(H5N1及びH7N9を除く)								

*1 病原体がベータコロナウイルス属SARSコロナウイルスであるものに限る。

*2 病原体がベータコロナウイルス属MERSコロナウイルスであるものに限る。2014年7月26日より指定感染症に定められた後、2015年1月21日より二類感染症に変更された。

*3 2013年より指定感染症に定められた後、2015年1月21日より二類感染症に変更された。

*4 病原体がフレボウイルス属SFTSウイルスであるものに限る。

分類	対象疾患	東京都(保健所受理週)					全国(診断週)	
		5週	6週	7週	8週	年累計	8週	年累計
四 類	ニパウイルス感染症							
	日本紅斑熱							
	日本脳炎							
	ハンタウイルス肺症候群							
	Bウイルス病							
	鼻疽							
	ブルセラ症							2
	ベネズエラウマ脳炎							
	ヘンドラウイルス感染症							
	発しんチフス							
	ボツリヌス症							
	マラリア						1	1
	野兔病							
	ライム病							
	リッサウイルス感染症							
	リフトバレー熱							
	類鼻疽							
	レジオネラ症			1	1	13	18	176
レプトスピラ症								
ロッキー山紅斑熱								

2015/2/25集計

(全数把握対象疾患のコメント・一類～四類)

〈二類感染症〉

結核 74件 肺結核 33件、その他の結核 13件、無症状病原体保有者 23件、疑似症 5件、年齢は5歳未満 1件、20代 11件、30代 9件、40代 8件、50代 4件、60代 15件、70代 11件、80代 12件、90歳以上 3件、推定感染地は国内 68件、フィリピン 1件、ミャンマー 1件、中国 1件、米国 1件、国内又はフィリピン 1件、国内又は国外(渡航先不明) 1件であった。

〈三類感染症〉

細菌性赤痢 2件 患者 2件、菌種はソンネ 2件、年齢は5歳未満 1件、30代 1件、推定感染地は国内 1件、パキスタン 1件、推定感染経路は同性間性的接触 1件、経口感染 1件であった。

〈四類感染症〉

A型肝炎 2件 患者 2件、年齢は30代 2件、推定感染地は国内 1件、国内又はシンガポール又は中国 1件、推定感染経路は経口感染(カキ) 1件、不明 1件であった。

レジオネラ症 1件 病型は肺炎型、年齢は80代、推定感染地は国内、推定感染経路は水系感染であった。

全数把握対象疾患 報告数（五類） 2015年8週

分類	対象疾患	東京都(保健所受理週)					全国(診断週)	
		5週	6週	7週	8週	年累計	8週	年累計
五 類 (全 数 届 出)	アメーバ赤痢	7	5	4	1	28	12	156
	ウイルス性肝炎 (A型・E型を除く)		1	1	1	6	1	24
	カルバペネム耐性腸内細菌科細菌感染症 *2	1	4	4	1	14	13	149
	急性脳炎 *1	4	1	2		12	2	113
	クリプトスポリジウム症	1	1			2		4
	クロイツフェルト・ヤコブ病					3	1	26
	劇症型溶血性レンサ球菌感染症	4	1	2		10	3	75
	後天性免疫不全症候群	4	10	6	7	48	15	164
	ジアルジア症				1	1	2	10
	侵襲性インフルエンザ菌感染症					5	1	39
	侵襲性髄膜炎菌感染症					2		7
	侵襲性肺炎球菌感染症	4	4	4	7	55	23	425
	水痘(入院例に限る) *2			1	1	5	3	46
	先天性風しん症候群							
	梅毒	10	15	12	16	88	28	234
	播種性クリプトコックス症 *2					1	2	19
	破傷風							10
	バンコマイシン耐性黄色ブドウ球菌感染症							
	バンコマイシン耐性腸球菌感染症							7
風しん		1	1	1	4	4	27	
麻しん					1		6	
薬剤耐性アシネトバクター感染症 *2							2	

2015/2/25集計

*1 ウエストナイル脳炎、西部ウマ脳炎、ダニ媒介脳炎、東部ウマ脳炎、日本脳炎、ベネズエラウマ脳炎及びリフトバレー熱を除く。

*2 2014年9月19日より新たに追加指定された。

（全数把握対象疾患のコメント・五類）

〈五類感染症〉

アメーバ赤痢 1件 病型は腸管、年齢は50代、推定感染地は国内、推定感染経路は不明であった。

ウイルス性肝炎 1件 B型、年齢は30代、推定感染地は国内、推定感染経路は同性間性的接触、B型肝炎ワクチン接種歴は無しであった。

カルバペネム耐性腸内細菌科細菌感染症 1件 患者、病原菌はESBL産生大腸菌、年齢は70代、推定感染地は国内、推定感染原因は免疫低下(多発性骨髄腫)、90日以内の海外渡航歴は無しであった。

後天性免疫不全症候群 7件 AIDS 1件、無症候キャリア 5件、その他 1件、AIDS患者の年齢は40代、無症候キャリア及びその他の年齢は20代 1件、30代 3件、40代 1件、50代 1件、推定感染地は国内 2件、タイ 2件、インドネシア 1件、不明 2件、推定感染経路は性的接触 6件(同性間 2件、異性間 3件、両性間 1件)、不明 1件であった。

ジアルジア症 1件 年齢は40代、推定感染地は国内、推定感染経路は不明であった。

侵襲性肺炎球菌感染症 7件 血清型は検査未実施 6件、記載なし 1件、年齢は5歳未満 1件、40代 1件、60代 1件、70代 3件、80代 1件、推定感染地は国内 5件、シンガポール 1件、国内又は国外(渡航先不明) 1件、推定感染経路は飛沫・飛沫核感染 3件、不明 4件、肺炎球菌ワクチン接種歴は7価1回・13価2回接種済み 1件、無し 2件、不明 4件であった。

水痘(入院例) 1件 検査診断例、年齢は20代、推定感染地は国内、推定感染経路は接触感染、水痘ワクチン接種歴は不明であった。

梅毒 16件 早期顕症梅毒Ⅰ期 5件、早期顕症梅毒Ⅱ期 5件、無症候梅毒 6件、年齢は20代 5件、30代 8件、40代 3件、推定感染地は国内 16件、推定感染経路は性的接触 15件(同性間 3件、異性間 8件、性別不明 4件)、不明 1件であった。

風しん 1件 検査診断例、年齢は20代、推定感染地は国内又は国外(渡航先不明)、推定感染経路は不明、風しん含有ワクチン接種歴は不明であった。

※ 第6週該当分として〔五類〕アメーバ赤痢 1件の追加報告があった。

定点把握対象疾患 報告数 2015年8週

上段: 報告数
下段: 定点当たり

定点種別	対象疾患	2015年				報告 医療 機関数	定点 医療 機関数
		5週	6週	7週	8週		
小児科	RSウイルス感染症	97 0.37	100 0.38	63 0.24	81 0.31	261	264
	咽頭結膜熱	37 0.14	56 0.21	33 0.13	48 0.18		
	A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	692 2.63	687 2.63	626 2.41	702 2.69		
	感染性胃腸炎	2,244 8.53	1,968 7.54	1,910 7.35	2,196 8.41		
	水痘	89 0.34	130 0.50	90 0.35	122 0.47		
	手足口病	29 0.11	22 0.08	20 0.08	23 0.09		
	伝染性紅斑	207 0.79	151 0.58	168 0.65	174 0.67		
	突発性発しん	126 0.48	100 0.38	117 0.45	118 0.45		
	百日咳	5 0.02	7 0.03	2 0.01	8 0.03		
	ヘルパンギーナ	6 0.02	1 0.00	1 0.00	3 0.01		
	流行性耳下腺炎	66 0.25	48 0.18	52 0.20	67 0.26		
	川崎病 *1	6 0.02	7 0.03	3 0.01	1 0.00		
	不明発しん症 *1	8 0.03	13 0.05	10 0.04	10 0.04		
	インフル エンザ	インフルエンザ *2	7,844 18.86	4,743 11.43	3,204 7.74		
眼科	急性出血性結膜炎	1 0.03				39	39
	流行性角結膜炎	10 0.26	10 0.26	7 0.18	7 0.18		
基幹	細菌性髄膜炎 *3			2 0.08	1 0.04	25	25
	無菌性髄膜炎	1 0.04	1 0.04	4 0.16	1 0.04		
	マイコプラズマ肺炎	4 0.16	3 0.12	7 0.28	6 0.24		
	クラミジア肺炎(オウム病を除く)	1 0.04	1 0.04				
	感染性胃腸炎(ロタウイルス) *4	2 0.08	1 0.04	5 0.20	3 0.12		
	インフルエンザ入院	33 1.32	23 0.92	17 0.68	16 0.64		

2015/2/25集計

*1 不明発しん症、川崎病 は東京都が独自に指定する疾患である。

*2 鳥インフルエンザを除く。

*3 インフルエンザ菌、髄膜炎菌、肺炎球菌を原因として同定された場合を除く。

*4 病原体がロタウイルスであるものに限る。

(今週の注目される定点把握対象疾患)

- ・インフルエンザの定点あたり報告数は7週より流行警報基準を下回り、今週はさらに減少している。
- ・A群溶血性レンサ球菌咽頭炎及び伝染性紅斑の定点当たり報告数は過去5年平均を超えている。

定点把握対象疾患 報告数【年齢階級別】 2015年8週

	小児科										
	RS ウイルス 感染症	咽頭 結膜熱	A群溶血性 レンサ球菌 咽頭炎	感染性 胃腸炎	水痘	手足口病	伝染性 紅斑	突発性 発しん	百日咳	ヘルパン ギーナ	流行性 耳下腺炎
～5か月	7		1	10				2			
6～11か月	18			72	4	2	1	40	2	1	
1歳	35	17	13	182	11	9	4	64	1	1	2
2歳	15	8	39	177	10	1	7	3			6
3歳	3	6	56	179	11	5	17	4			5
4歳		5	96	184	26	1	35	1			7
5歳	1	6	113	162	20	2	25	2			14
6歳		2	107	169	16	2	32	2	1		12
7歳		1	78	131	13		20		1		7
8歳			58	125	3	1	15				5
9歳	1	1	48	111	5		2		2		4
10～14歳	1	1	63	289	2		14				4
15～19歳			1	77							
20～29歳		1	29	328	1		2		1	1	1
30～39歳											
40～49歳											
50～59歳											
60～69歳											
70～79歳											
80歳以上											
合計	81	48	702	2,196	122	23	174	118	8	3	67
先週比	18	15	76	286	32	3	6	1	6	2	15

注:小児科定点把握対象疾患の「20～29歳」は「20歳以上」と読み替える。
眼科定点把握対象疾患のうち、「70～79歳」は「70歳以上」と読み替える。

	小児科		インフルエンザ	眼科		基幹					
	川崎病	不明 発しん症	インフル エンザ	急性出血 性結膜炎	流行性 角結膜炎	細菌性 髄膜炎	無菌性 髄膜炎	マイコ プラズマ 肺炎	クラミジ ア肺炎	感染性 胃腸炎 (ロタウイルス)	インフル エンザ 入院
～5か月			9							1	
6～11か月	1	2	21								
1歳		1	75			1		1			1
2歳			87		1		1			1	1
3歳			90					1		1	
4歳			94								
5歳		1	124								
6歳			157								
7歳			143								
8歳		2	111					1			1
9歳		1	128								
10～14歳		2	388					1			
15～19歳			116					1			
20～29歳		1	91								
30～39歳			184		1			1			1
40～49歳			189		3						
50～59歳			94		1						
60～69歳			54								3
70～79歳			41		1						2
80歳以上			17								7
合計	1	10	2,213		7	1	1	6		3	16
先週比	-2		-991			-1	-3	-1		-2	-1

注:小児科定点把握対象疾患の「20～29歳」は「20歳以上」と読み替える。
眼科定点把握対象疾患のうち、「70～79歳」は「70歳以上」と読み替える。

定点把握対象疾患 報告数【保健所別・定点当たり】 2015年8週

	小児科										
	RS ウイルス 感染症	咽頭 結膜熱	A群溶血性 レンサ球菌 咽頭炎	感染性 胃腸炎	水痘	手足口病	伝染性 紅斑	突発性 発しん	百日咳	ヘルパン ギーナ	流行性 耳下腺炎
千代田				1.67			0.33			0.33	
中央区	0.67	0.33	0.67	2.33	0.33		0.67	1.67			0.33
みなと	0.83	0.67	1.50	10.83	0.50		0.67	0.50			
新宿区	0.50		0.88	5.88	0.13		0.75	0.13			0.13
文京		0.75	1.75	7.25	0.75		0.50				
台東			1.25	17.50	0.25		0.50		0.25		1.25
墨田区			4.00	6.60	0.60		0.40	0.60			0.40
江東区	0.33	0.11	3.22	13.89	0.44		1.89	0.33		0.11	0.22
品川区		0.25	2.88	10.00		0.13	0.50	0.50			
目黒区	0.20		2.00	8.20			0.20	0.20			
大田区	0.31	0.08	1.85	11.54	0.23	0.31	0.46	0.69			0.08
世田谷	0.63	0.50	1.44	11.06	0.69	0.13	0.31	0.69		0.06	0.06
渋谷区			0.50	4.75	1.00		0.50	0.25			
中野区			1.50	11.50			1.00	0.83			0.17
杉並	0.09		1.45	5.45	0.09		0.36	0.27			0.09
池袋	0.25		1.50	3.75	0.25		0.25				
北区			1.29	8.14		0.14	0.86	0.43			0.14
荒川区	0.50	0.50	8.75	8.75	1.50		1.00	0.25			
板橋区		0.10	0.80	6.50	0.10	0.30	1.10	0.30			0.20
練馬区		0.15	3.08	6.77	0.69	0.23	1.15	0.23			
足立	0.15	0.15	1.69	10.62	0.31			0.62			0.38
葛飾区	0.63		2.13	9.38	0.50		0.88	0.25			0.50
江戸川	0.17	0.25	5.17	9.25	0.58		0.42	0.50	0.08		0.33
八王子市	1.45	0.27	6.73	13.27	0.91	0.18	0.64	0.55	0.18		0.91
町田市	0.50		6.63	10.88	0.63		0.63	0.50			
西多摩		0.38	1.38	5.88	0.75		0.25	0.13			1.75
南多摩	0.33		2.78	5.78	0.78		1.78	0.33			
多摩立川	0.14		1.64	6.14	0.36		0.64	0.50	0.07		0.14
多摩府中	0.21	0.21	2.79	7.05	0.63	0.37	0.68	0.63	0.11		0.21
多摩小平	0.67	0.40	5.20	5.53	0.33		0.60	0.67	0.07		0.40
島しょ		2.00			5.00						
東京都	0.31	0.18	2.69	8.41	0.47	0.09	0.67	0.45	0.03	0.01	0.26

	小児科		インフルエンザ	眼科		基幹					
	川崎病	不明発しん症	インフルエンザ	急性出血性結膜炎	流行性角結膜炎	細菌性髄膜炎	無菌性髄膜炎	マイコプラズマ肺炎	クラミジア肺炎	感染性胃腸炎 (ロタウイルス)	インフルエンザ入院
千代田			4.00								
中央区			3.40								
みなと			4.22								3.00
新宿区			4.92					0.50			
文京			2.29								
台東			4.43								
墨田区			6.63		1.00						
江東区	0.11		5.29								
品川区			3.17								
目黒区			3.25								
大田区		0.08	3.60		1.00						
世田谷		0.13	6.52				0.50	0.50			1.50
渋谷区			2.14		1.00					1.00	1.00
中野区			5.00								
杉並		0.09	4.18								
池袋			1.86								
北区			6.00								
荒川区		0.25	8.43								
板橋区			3.00		0.50			2.00		1.00	2.00
練馬区			4.00								
足立			3.65								
葛飾区			7.77								
江戸川		0.08	4.74		0.50						
八王子市			11.56								
町田市			10.31								
西多摩			2.93								
南多摩			7.86								
多摩立川			5.52					1.00		1.00	
多摩府中		0.05	6.35			0.33					2.33
多摩小平		0.20	5.35		0.50			0.50			
島しょ			5.50								
東京都	0.00	0.04	5.33		0.18	0.04	0.04	0.24		0.12	0.64

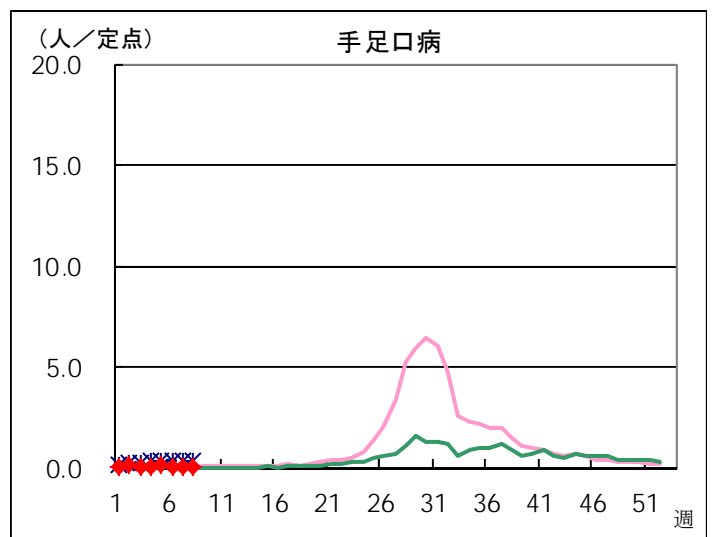
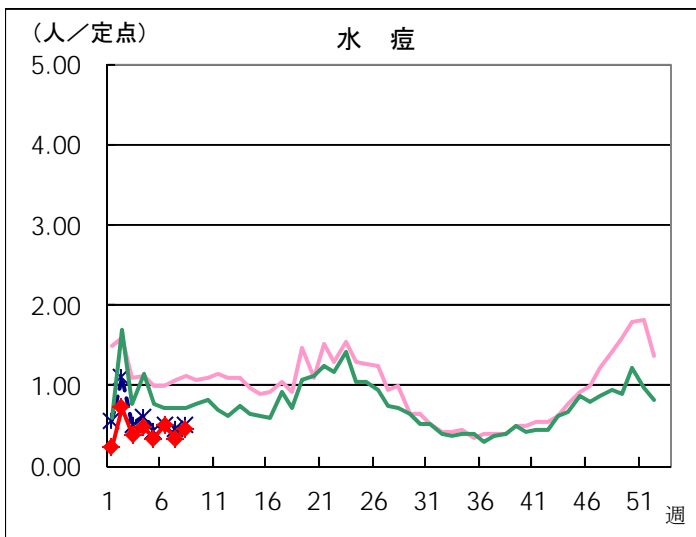
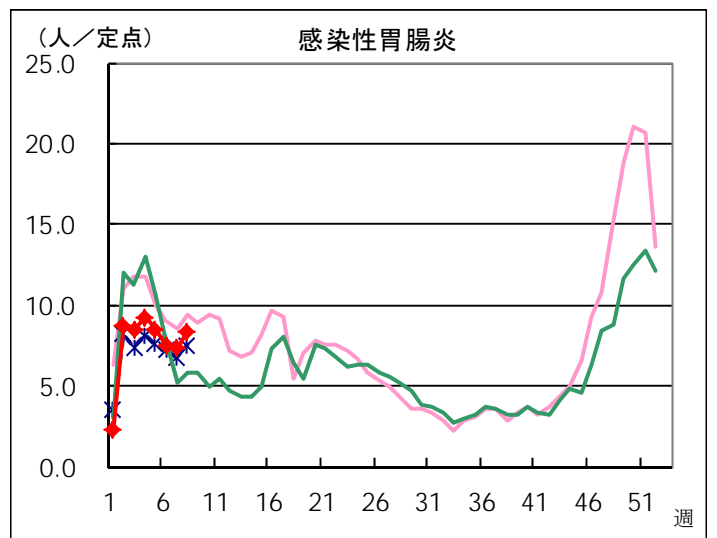
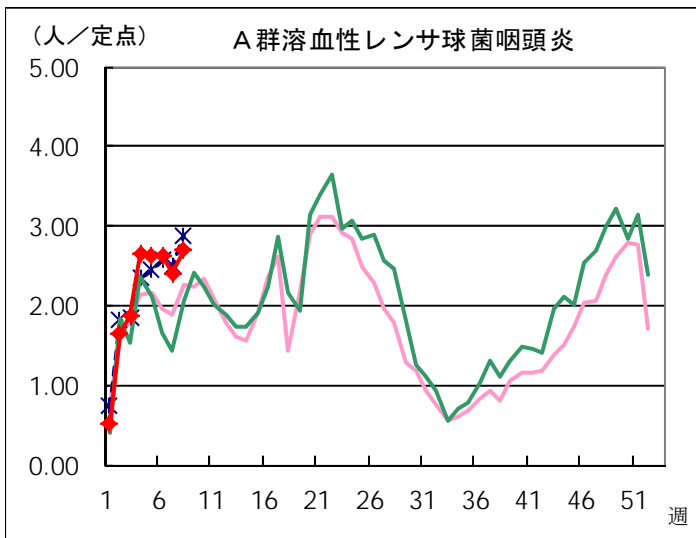
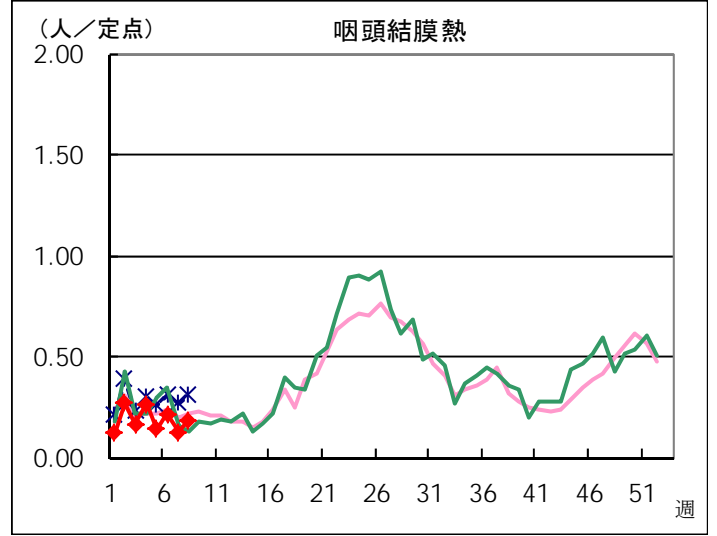
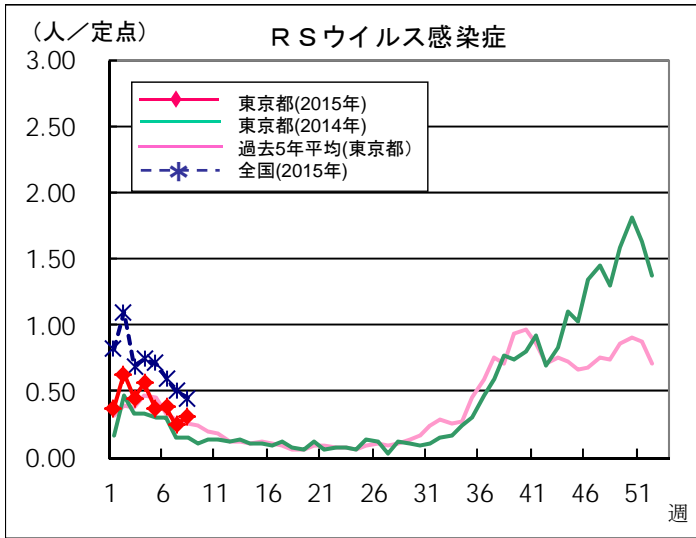
定点把握対象疾患 報告数【保健所別】 2015年8週

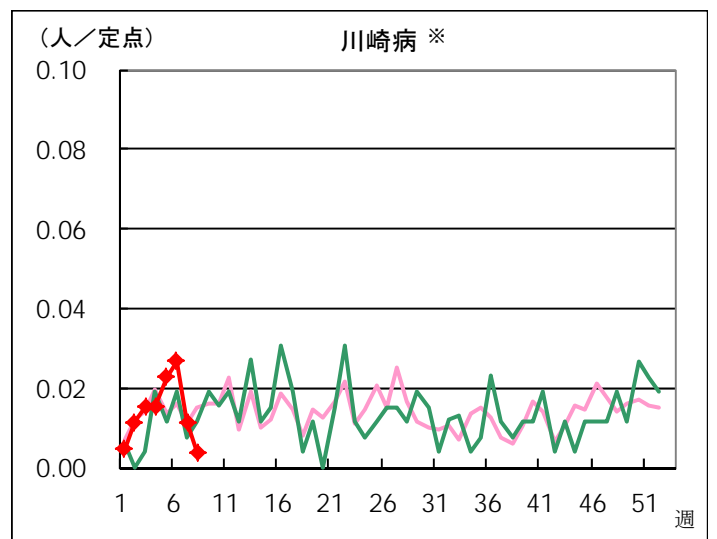
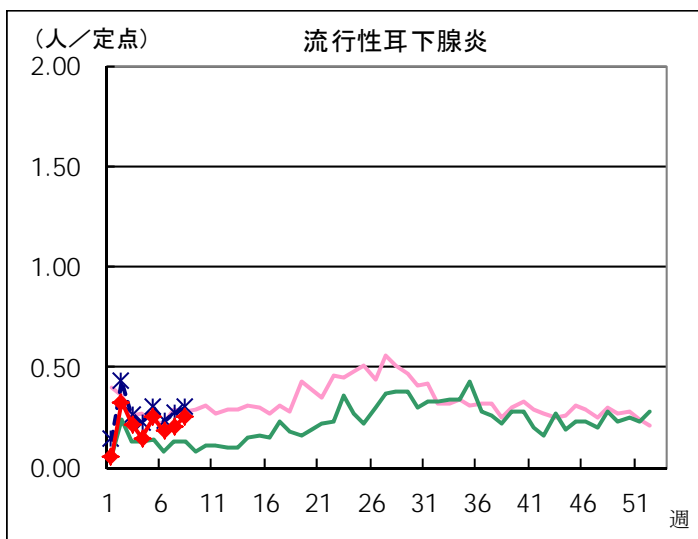
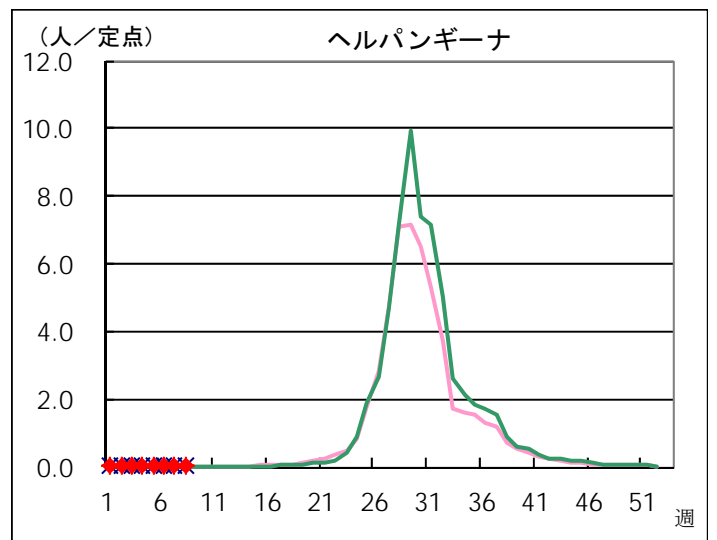
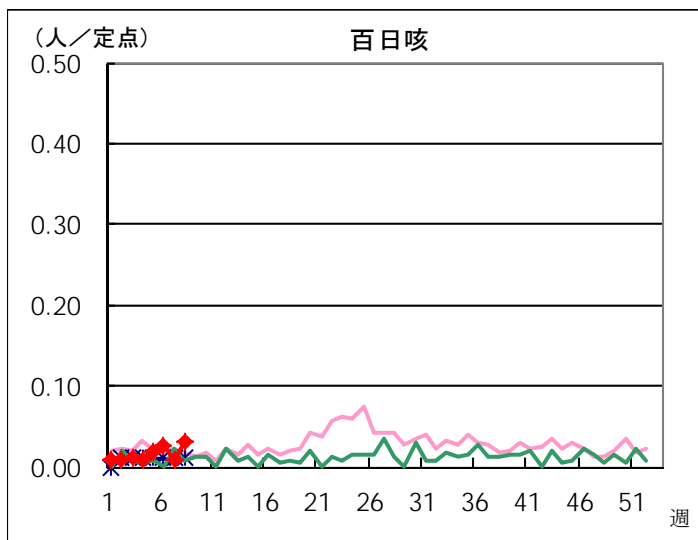
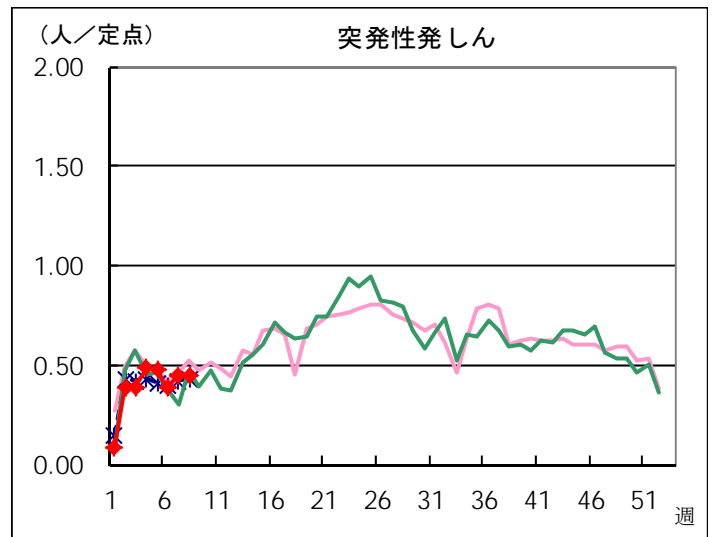
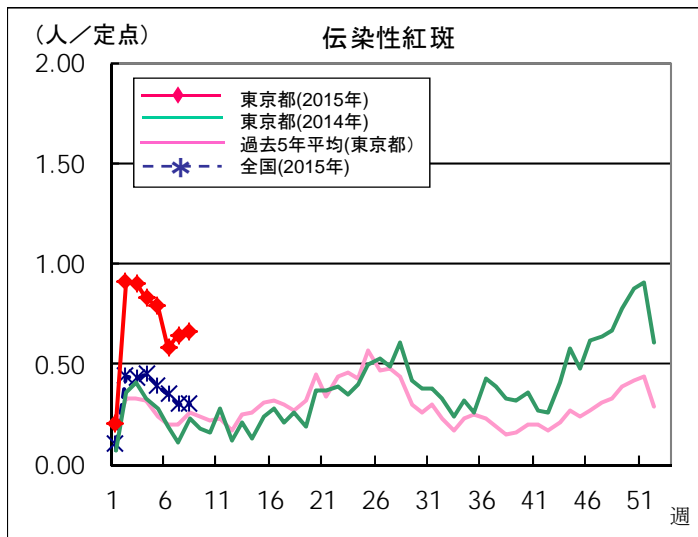
	小児科										
	RSウイルス 感染症	咽頭結膜熱	A群溶血性 レンサ球菌 咽頭炎	感染性 胃腸炎	水痘	手足口病	伝染性 紅斑	突発性 発しん	百日咳	ヘルパン ギーナ	流行性 耳下腺炎
千代田				5			1			1	
中央区	2	1	2	7	1		2	5			1
みなと	5	4	9	65	3		4	3			
新宿区	4		7	47	1		6	1			1
文京		3	7	29	3		2				
台東			5	70	1		2		1		5
墨田区			20	33	3		2	3			2
江東区	3	1	29	125	4		17	3		1	2
品川区		2	23	80		1	4	4			
目黒区	1		10	41			1	1			
大田区	4	1	24	150	3	4	6	9			1
世田谷	10	8	23	177	11	2	5	11		1	1
渋谷区			2	19	4		2	1			
中野区			9	69			6	5			1
杉並	1		16	60	1		4	3			1
池袋	1		6	15	1		1				
北区			9	57		1	6	3			1
荒川区	2	2	35	35	6		4	1			
板橋区		1	8	65	1	3	11	3			2
練馬区		2	40	88	9	3	15	3			
足立	2	2	22	138	4			8			5
葛飾区	5		17	75	4		7	2			4
江戸川	2	3	62	111	7		5	6	1		4
八王子市	16	3	74	146	10	2	7	6	2		10
町田市	4		53	87	5		5	4			
西多摩		3	11	47	6		2	1			14
南多摩	3		25	52	7		16	3			
多摩立川	2		23	86	5		9	7	1		2
多摩府中	4	4	53	134	12	7	13	12	2		4
多摩小平	10	6	78	83	5		9	10	1		6
島しょ		2			5						
東京都合計	81	48	702	2,196	122	23	174	118	8	3	67

	小児科		インフルエンザ	眼科		基幹					
	川崎病	不明発しん症	インフルエンザ	急性出血性結膜炎	流行性角結膜炎	細菌性髄膜炎	無菌性髄膜炎	マイコプラズマ肺炎	クラミジア肺炎	感染性胃腸炎 (ロタウイルス)	インフルエンザ入院
千代田			16								
中央区			17								
みなと			38								3
新宿区			59					1			
文京			16								
台東			31								
墨田区			53		1						
江東区	1		74								
品川区			38								
目黒区			26								
大田区		1	72		2						
世田谷		2	163				1	1			3
渋谷区			15		1					1	1
中野区			50								
杉並		1	71								
池袋			13								
北区			66								
荒川区		1	59								
板橋区			48		1			2		1	2
練馬区			84								
足立			73								
葛飾区			101								
江戸川		1	90		1						
八王子市			208								
町田市			134								
西多摩			41								
南多摩			110								
多摩立川			116					1		1	
多摩府中		1	197			1					7
多摩小平		3	123		1			1			
島しょ			11								
東京都合計	1	10	2,213		7	1	1	6		3	16

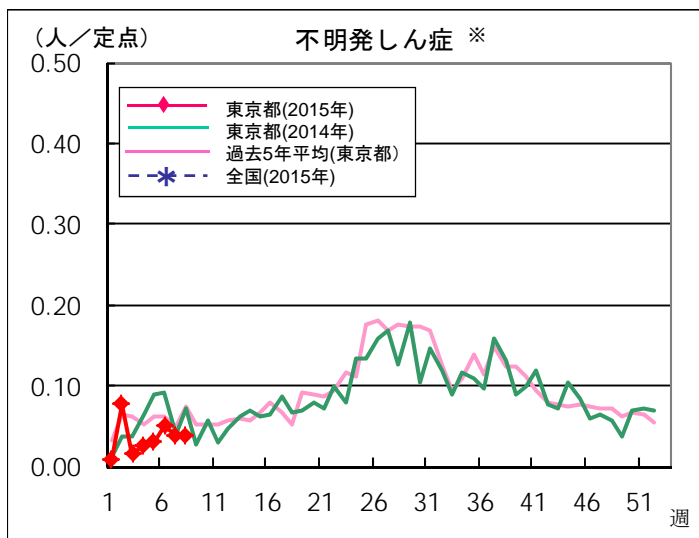
定点把握対象疾患 週別報告数(2015年8週 現在)

◆ 小児科定点



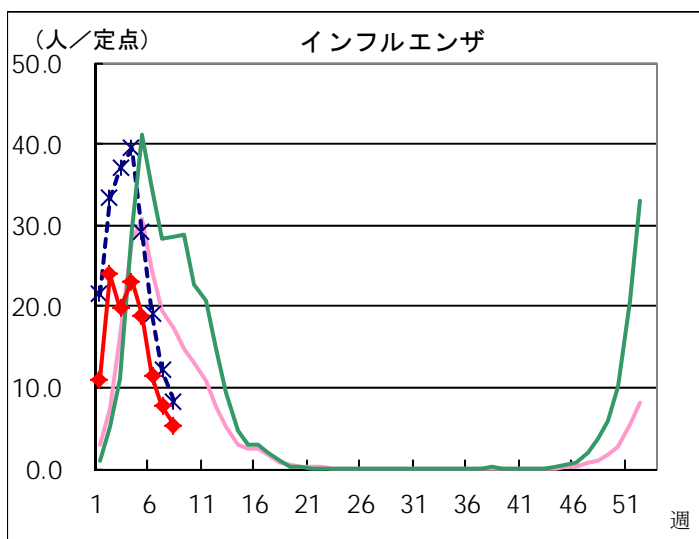


※ 東京都独自対象疾患

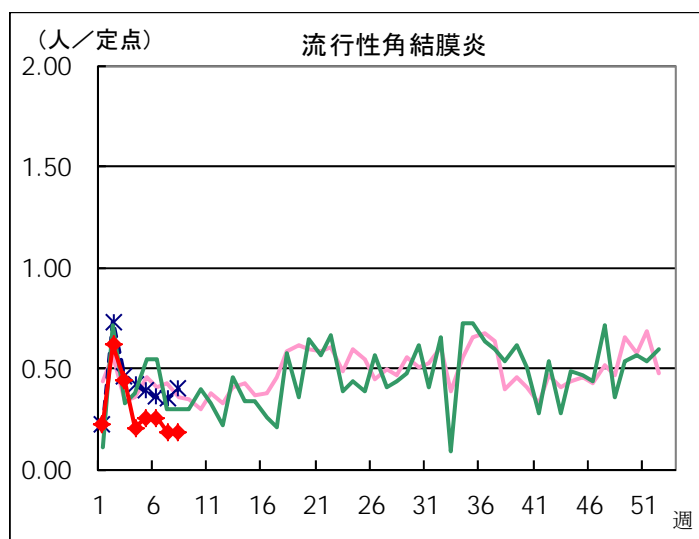
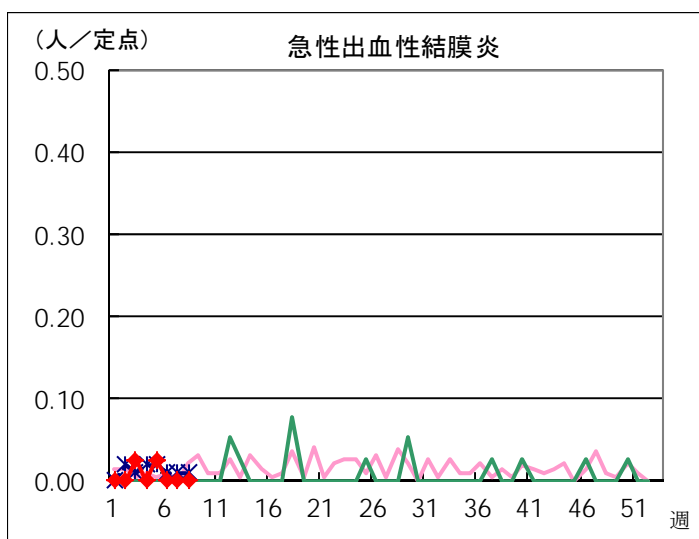


※ 東京都独自対象疾患

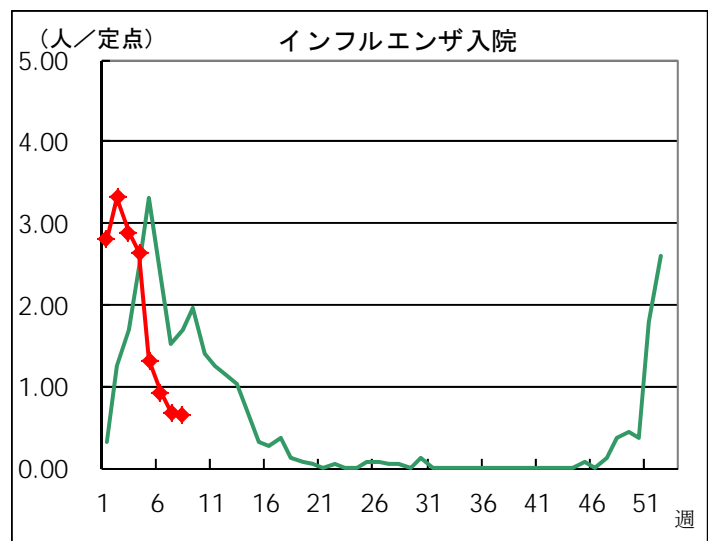
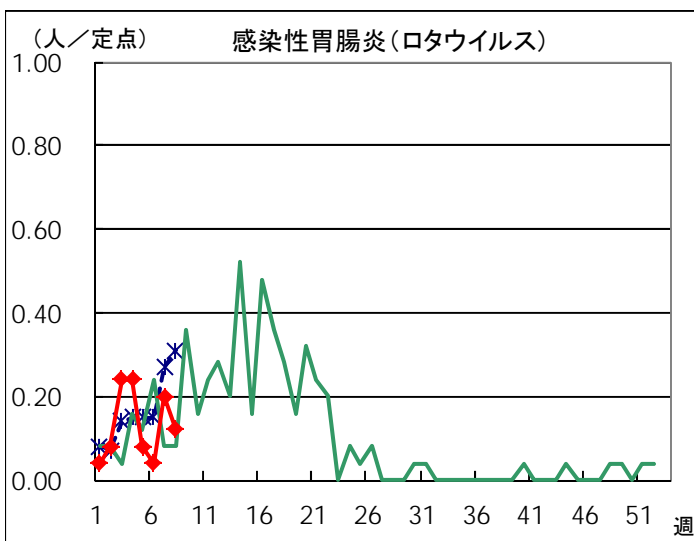
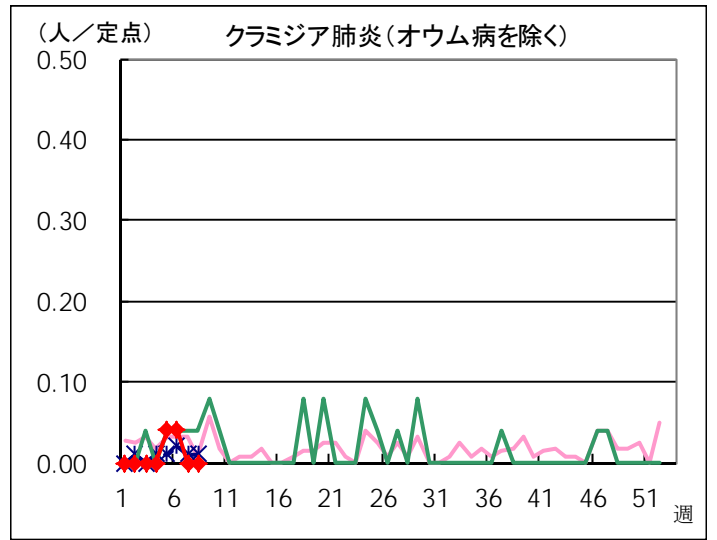
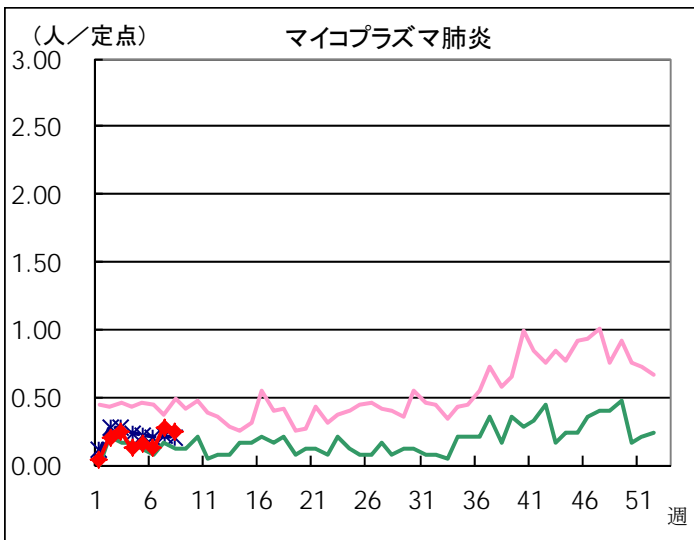
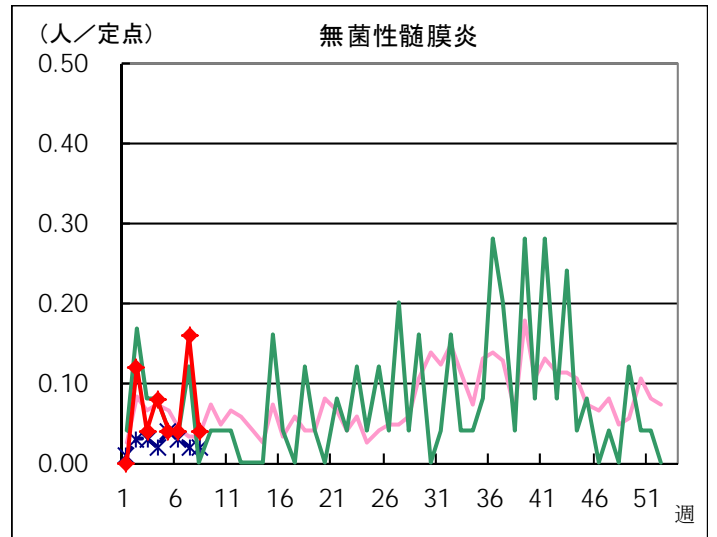
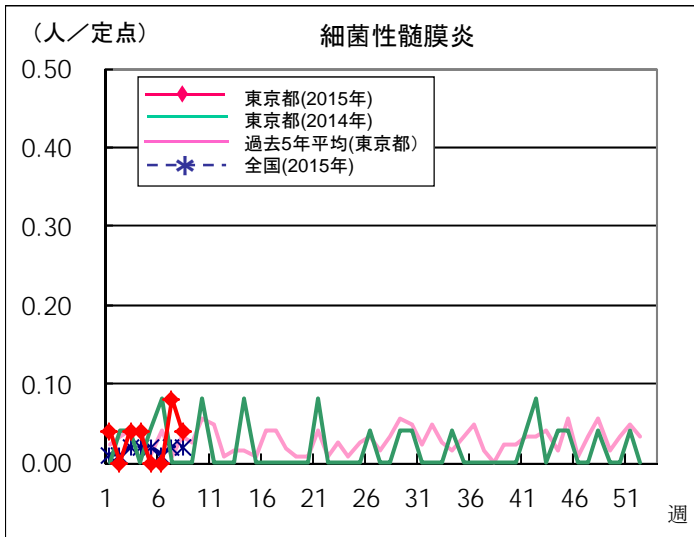
◆ インフルエンザ定点



◆ 眼科定点



◆ 基幹定点



定点(病原体)医療機関から搬入された検体の検査情報

◇病原体検出状況(インフルエンザウイルスを除く)

採取日	臨床診断名	年齢	検査試料	検出病原体
2/5	気管支炎	2	咽頭拭い液	アデノウイルス ライノウイルス
2/6	不明熱	9	咽頭拭い液	アデノウイルス EBウイルス
2/10	不明熱	6	咽頭拭い液	アデノウイルス

◇遺伝子検査法によるインフルエンザウイルスの亜型別検出件数

	AH1pdm09	AH1亜型	AH3亜型	B型
2015年7週			12	
2014-2015年 シーズン累計*			201	15

* 2014-2015年シーズンの開始は第36週(2014年9月1日～)

病原体検出情報 【週別】

検出病原体	2014年	2015年						
	52週	1週	2週	3週	4週	5週	6週	7週
アデノウイルス	2		4	7	6	20	2	3
ライノウイルス			1	1	1			1
ポリオウイルス								
コクサッキーウイルスA群			1	1		2		
コクサッキーウイルスB群			2					
エコーウイルス								
エンテロウイルス71								
その他のエンテロウイルス	1		2		1	2		
単純ヘルペスウイルス	1				1			
水痘・帯状疱疹ウイルス								
ヒトヘルペスウイルス6型・7型			1	2	1	4	1	
EBウイルス				1				1
サイトメガロウイルス				1		1		
ムンプスウイルス			1					
麻疹ウイルス				1			1	
風疹ウイルス								
ヒトパルボウイルスB19			4	1	3	5	1	
RSウイルス	2					1		
ノロウイルス	3		1	1	3	5	3	
ロタウイルス								
インフルエンザウイルスAH1亜型								
インフルエンザウイルスAH3亜型	21		33	9	25	18	12	12
インフルエンザウイルスB型			3		2	2	5	
インフルエンザウイルスAH1pdm09								
デングウイルス(抗体を含む)								
その他のウイルス								
その他の病原体								

病原体検出情報【臨床診断名別】

2014年52週～2015年7週

	インフルエンザ	上気道炎	下気道炎	感染性胃腸炎	無菌性髄膜炎	咽頭結膜熱	流行性角結膜炎	ヘルパンギーナ	手足口病	伝染性紅斑	不明発しん症	流行性耳下腺炎	水痘	麻疹	風しん	その他
搬入検体数	156	11	21	26	25	5	5		3	12	22	5				15
アデノウイルス	4	3	4	6		4	2			6	6	2				7
ライノウイルス			3							1						
ポリオウイルス																
コクサッキーウイルスA群								1	1	1						1
コクサッキーウイルスB群					2											
エコーウイルス																
エンテロウイルス71																
その他のエンテロウイルス			1		1	1			2							1
単純ヘルペスウイルス					1											1
水痘・带状疱疹しんウイルス																
ヒトヘルペスウイルス6型・7型											6					3
EBウイルス		1														1
サイトメガロウイルス		1									1					
ムンプスウイルス												1				
麻疹ウイルス										1	1					
風しんウイルス																
ヒトパルボウイルスB19										9	4					1
RSウイルス			3													
ノロウイルス				16												
ロタウイルス																
インフルエンザウイルスAH1亜型																
インフルエンザウイルスAH3亜型	125	1	2													2
インフルエンザウイルスB型	12															
インフルエンザウイルスAH1pdm09																
デングウイルス(抗体を含む)																
その他のウイルス																
その他の病原体																

<感染症豆知識>

ポリオワクチンー過去と現在ー 生ワクチンから不活化ワクチンへ

エンダース博士らによって組織培養法がウイルス学に取り入れられたのが1949年であり、これが近代ウイルス学発展の足場となっている。

ソーク博士がサルの腎細胞培養法を用いてポリオの不活化ワクチンを完成したのが1953年、そして1955年に野外実験の成果が発表された。

一方、生ワクチン開発の研究もいくつか行われ、1957年頃からの野外実験の結果、セービン博士のワクチン株が最も安全に用いることが認められた。国家的規模でセービンワクチンを製造し始めたのがソ連であった。

わが国のポリオの発生状況は、年間1300から4200の間程度であったが、1960年には北海道を中心に大流行があり、患者数5606に達した。

当時の厚生省も危機感を深めて、全国規模の研究協議会を立ち上げ流行の阻止には生ワクチンが有効との観点から、小規模の臨床試験を開始した。しかし、1961年も前年の流行を上回る様相となり、時の古井厚生大臣の決断でソ連とカナダから1300万人分の生ワクチンの緊急輸入に踏み切った。7月中旬から1ヵ月の間に全国の小学生以下の子ども全員に接種が完了し、同時にポリオの流行はピタリと止まった。わが国では生ワクチン製造と定期接種化に切り替えてポリオの根絶に成功した。しかし生ワクチンには、稀ながら服用後の麻痺例が避けられない。最近9年間の資料では、2000万接種に21例のワクチン関連麻痺疑いの症例が報告されている。

このため平成24年9月にポリオの予防接種を不活化ワクチンに切り替え、11月からはDPTワクチンにポリオ不活化ワクチンを加えた4混ワクチンが用いられている。

(文責 (社福) 恩賜財団母子愛育会日本子ども家庭総合研究所名誉所長 平山宗宏)